

小中高校向け Adobe Creative Cloud ユーザー指定ライセンス 新規導入ガイド

Society 5.0時代を生きる子どもたちに必要な
情報教育の実現に向けた、クラウドを最大限に活用した
学習環境の導入とその流れをご紹介します。



Adobe Creative Cloud小中高校サイトライセンス 3つのPOINT

POINT
1



高校の
2022年必修修化の「情報I」
に対応

POINT
2



最新アプリやサービス
を好きなタイミングで
利用可能

POINT
3



Google・Azure AD
などと連携可能

ご利用ニーズや環境に合わせてライセンスプランをお選びいただけます

	BYODで利用するなら ユーザー指定ライセンス	PCルームなどで利用するなら 共有デバイスライセンス
利用時の利点	<p>自宅と学校の両方で使える</p>	<p>1台のデバイスを複数名で使える</p>
ライセンスの所属先	<p>ユーザーIDに紐付く</p>	<p>デバイスに紐付く</p>
使用可能なアプリとサービス	<p>最新のCreative Cloudアプリケーションと オンラインサービス</p>	<p>最新のCreative Cloudアプリケーションと オンラインサービス*1</p>
最低発注本数と価格	<p>先生・生徒250人分で 135,250円(税込)(本体価格123,000円)／年*2</p> <p>▼</p> <p>1ユーザーあたり約500円※／年</p> <p>※ 最低発注本数250本以上の場合(税込、十の位四捨五入)</p>	<p>デバイス50台分で 163,700円(税込)(本体価格148,800円)／年*2</p> <p>▼</p> <p>1台あたり約3,300円※／年</p> <p>※ 最低発注本数50本以上の場合(税込、十の位四捨五入)</p>

*1 いずれのライセンスもAdminコンソールでのデバイスの指定、ユーザーの指定が必要です。ユーザーは組織に属する教職員・児童・生徒に限りません。

*2 共有デバイスライセンスの場合、利用できる内容や条件の詳細はユーザーに紐付くライセンス内容(無償メンバーシップ、有償メンバーシップなど)によって異なります。

*3 上記はメーカー参考価格です。なお教育委員会サイトライセンスの場合、最低発注本数が異なります。詳しくは販売店にお問い合わせください。

事前準備

1 ユーザーIDの運用環境やルールを選定

生徒や教員のユーザーIDを運用・管理する環境を整備し、状況に応じて使用ルールに基づいたグループ分けなどを行います。運用環境にGoogle Workspace for EducationやMicrosoft Azure ADを選択すると、アドビのサービスとの連携がスムーズです。

▼ ID の設定
<https://adobe.ly/3aldA3p>



2 Google Workspace for Educationなどとのフェデレーション設定

Google Workspace for EducationやMicrosoft Azure ADなどのエンタープライズディレクトリをIDプロバイダー (IdP) として使うことで、ユーザーの認証情報をアドビへ提供し、シングルサインオンが可能になります。設定後、ID情報は自動で同期されます。また、ドメインも同期されます。



▼ Google Workspace for Educationとの連携
<http://adobe.ly/3eqjXt0>



▼ Microsoft Azure ADとの連携
<http://adobe.ly/3vbw87t>



3 Federated IDのドメインクレーム

ディレクトリの作成、ドメインの追加、ドメインの検証、ドメインとディレクトリの登録 (リンク) の順に行います。

※手順2でAzure・Googleコネクタでフェデレーション設定した場合は、ドメインも同期されるのでAdmin Consoleでのドメインクレームは不要です。

▼ ドメインクレームの流れ
<http://adobe.ly/2Zntvkt>



4 製品プロファイル割り当てなどの設定

各自でクラウドストレージが利用できるよう、Adobe Sparkの製品プロファイルの割り当てなどを設定します。そのほかの各種設定も、Web管理ツール「Admin Console」による一元的な運用が可能なので、導入後の管理負担も軽減されます。

▼ Admin Console での各種設定
<https://adobe.ly/2Seodog>



▼ Sparkへのアクセス
<http://adobe.ly/3vr7FeF>



5 ユーザーの割り当て

Admin Consoleの画面の指示に従い、製品を使用するユーザーの設定 (ユーザー割り当て) を実行します。

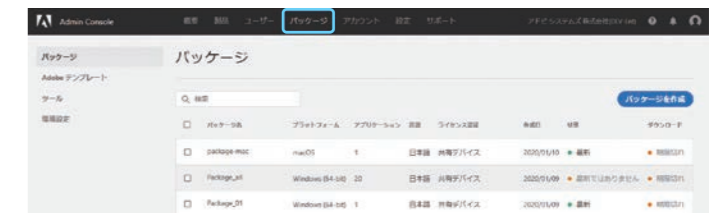
▼ ユーザーの管理
<http://adobe.ly/2OGVo4j>



6 パッケージ (インストーラー) の作成

ライセンスやアプリケーションをまとめたパッケージを作成します。Admin Console上で、OSの種類や使用言語などを選択していくと、必要なファイルが自動的に作成されます。

▼ ユーザー指定ライセンスのパッケージ作成
<http://adobe.ly/3bc2uGj>



導入日当日

ライセンス移行の場合 デバイスライセンスのアンインストール

デバイスライセンスまたは共有デバイスライセンスからユーザー指定ライセンスへ移行するときは、あらかじめ過去にインストールされたすべての製品とライセンスをアンインストールします。

※ Admin Console上で [移行] ボタンを押下後、30日以内に完了させる必要があります。



7 パッケージのデプロイ (インストール)

ライセンスとアプリケーションをまとめたパッケージを使って、各自のパソコンへCreative Cloudをデプロイします。他社製の遠隔操作ソフトを使えば、対象ユーザーのパソコンへ一括でインストールすることもできます。



8 デプロイ後の起動確認

デプロイが完了したら、各ユーザーのパソコンで試しにCreative Cloudを起動します。Federated IDでログインすると、連携するエンタープライズディレクトリの画面が表示され、ディレクトリ側で認証が行われます。



Google連携の場合

ユーザー指定ライセンス導入の確認と準備

パソコン

- **メモリ**: 8GB以上を推奨
- **SSD**: 128~256GB程度
- **CPU**: 標準的なビジネスユース

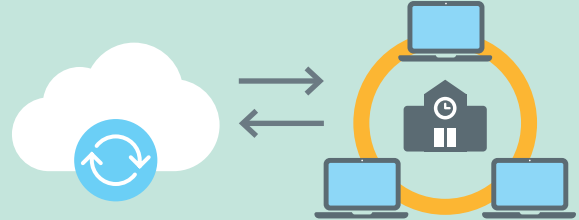
※ 製品導入にあたっては必ず
最新の必要システム構成をご確認ください。

▼ 必要システム構成

<https://www.adobe.com/go/systemrqj>



インターネット接続



クラウドサービスに接続可能な校内LAN

学校ドメインとユーザーID

xxschool.ed.jp
zxschool.ac.jp



name1@xxschool.ed.jp



name2@xxschool.ac.jp



教育機関独自のドメインと、組織内でCreative Cloudを利用
するすべての人のメールアドレス

Google・Azure ADなどの エンタープライズディレクトリ

▼ Google Workspace for Education

<http://bit.ly/3cm7d8Z>

▼ Microsoft Azure AD

<https://bit.ly/2XmYITh>



学校ドメインを認証して、ユーザーID (各自のメールアドレス)
を管理する

Creative Cloud小中高校向け
ライセンスプラン詳細はこちら

<https://www.adobe.com/go/k12j>



アドビ株式会社

〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎 イーストタワー www.adobe.com/jp/
このカタログに記載の情報は、2021年3月時点のものです。内容に関しては予告なく変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

Adobe, the Adobe logo, Acrobat, Adobe Premiere Pro, Adobe Spark, Adobe XD, Creative Cloud, the Creative Cloud logo, Dreamweaver, Illustrator, InDesign, and Photoshop are either registered Trademarks or trademarks of Adobe in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.

© 2021 Adobe. All rights reserved. ASJST1746 3/20

Creative Cloud小中高校向けに関するお問い合わせは

